

「授業備品」N067 H.30.7.27「ホワイトボードⅡ」

ホワイトボードのメリットは、話し合いの「見える化」ができるということだ。子供たち全員が考えをホワイトボードに書き、それを共有すれば、学び合いの内容が濃くなり、無駄な時間を省くことができる。

1 ホワイトボードのメリット

(1) 正解を述べた子どもだけが評価されない

正解をもつ子だけの授業となる場合がある。そこで、子供たち全員の発言を文章化すると意見を共有することができる。長々と同じことを話すといったこともなくなる。多くの子供が仲間の意見を聞くことができ、学び合いを進めることができる。

(2) すれ違いの議論が避けられる

子供たちの考えをホワイトボードに書き出すことで、聞き違いや考えの認識の差がなくなる。また、学級の仲間の考えを尊重し、ともに学び合うことの重要性を学ぶことができる。

(3) ライブ感がもてる

子供たちが自分の考えを書くことで、授業に参加する自覚が出る。また、書いた内容に対しての責任感をもつようになる。全員参加しているというライブ感が出て、深い学びができる。



2 ホワイトボードへの書き方

(1) 要点を押さえて書く

ホワイトボードに書くのに時間がかかると、授業時間がなくなるので、要点だけをまとめて簡潔に書くようにする。自分の考えを一言一句書く必要はなく、箇条書きなどで簡潔に書く。

(2) 複数の色を使って書く

ホワイトボードに1色だけのマジックで書くと、メリハリがなくなる。何が重要な内容なのかも分からない。重要な事は赤や青などの目立つ色を使って、参加者の注意を引きやすくするとよい。多くの色を使い過ぎると、分かりづらくなるので、3~4色程度に留める。

(3) 文章だけではなく、図やグラフも用いる

文章だけでは単調になる。観る人の関心が薄れやすい。そこで、図やグラフなども用いることが重要だ。分かり易い図やグラフは内容を相手に理解させることにできる。図やグラフを書くと時間が掛かるので、基本的な内容だけを書くようにする。

(4) 適切な大きさと書く

全員が良く見える様な大きさとホワイトボードに書く事も重要である。見えにくい大きさの文字で書くと、ホワイトボードを見ない子供が出てくる。だれでも見えるような大きさの字で書く。大きく書くと、ホワイトボードに書ける量が少なくなるので、工夫して書くようにする。



3 学年段階の指導*ガイド学習の学習の手引書より転載

子供たちが分かりやすいボードを書くことができるようになるには、6年間を見通した段階的な指導が大切です。例えば、次のような各段階が考えられます。

①自分が考えたことをそのまま書かせるなど、話し言葉で書く段階

②文字がたくさん並び、見る人が分かりにくいことを理解し、書くことを精選する段階

③自分の言いたいことを四角囲みや色チョークで強調したり、矢印を使って流れが分かりやすいように工夫したりする段階

ホワイトボードに上手にかけるようにするためには、よくかけているボードを取り上げて、教師が価値付けることが重要です。そのことを通して、分かりやすいかき方を具体的に理解することができます。